

【自主財源増強策】

分別方法の統一化とごみ袋有料化によるごみ減量大作戦

<当市におけるごみ処理に関する現状>

- (1) ごみの分別方法が2方式である(掛川区域方式と大東・大須賀区域方式)
- (2) ごみ処理にかかる経費が年間11億円以上ある
- (3) 市民1人1日当たりのごみ排出量が10万人以上50間人未満の市の中で最少である  
(2年連続日本一:22年度、23年度実績)

「ごみ減量大作戦」の次なる展開

1市2制度をやめ、  
市民サービスの  
公平性を保つ

ごみの排出抑  
制に向けた更な  
る意識改革

受益者負担の  
考え方を促進

ごみ処理費用  
負担

分別方式の統一

ごみ袋有料化

分別方法統一化及びごみ袋有料化のメリット

- 分別に携わっていた区役員等の負担が軽減する
- 市民は、ごみの排出量に応じて処理費を負担する(受益者負担の公平性)
- 環境資源ギャラリーの処理能力が十分に発揮できる
- ごみの排出に関して、「分別」と「排出抑制」意識が高まり、  
結果として、環境資源ギャラリーにおけるごみ処理量の減少に繋がる
- ごみを減量することは、環境資源ギャラリー運営費の軽減となり、新たな施設増設等の経費負担の回避につながる。

期待される効果

ごみ袋有料化による効果額 35,000千円

- 新たな市民サービスの財源として活用
- 一部事務組合に対する市ごみ処理負担金の削減
- ごみ処理施設(焼却炉等)の老朽化軽減
- ごみ収集経費の削減
- 「市民協働のまちづくり」の先進事例として他事業へ波及

※ごみ排出量の  
削減による

～環境日本一のまちづくり～

「スマートシティ構想」の推進、ごみ排出量の少なさ日本一、美しい自然環境の保全など、地域課題の解決に向けた施策をさらに充実させる。